

[調査会 NEWS 542] (19.8.8)

■ 古都瑞子さんの拉致に関する刑事告発について

6月6日に1000番台リストになった鳥取県米子市の古都瑞子さんについて、警察への刑事告発が8月21日火曜、14:30に米子警察署にて行われることになりました。これに先立ち地元では同日13:30から米子市役所の記者クラブで記者会見が行われます。記者会見および告発の参加者は古都瑞子さんの弟である古都資朗さん、代理人である安田壽朗弁護士、調査会妹原仁常務理事の予定です。

なお、同時に1000番台リスト入りした矢倉富康さんについては、現在慎範アナウンサーの声と矢倉さんのご両親の声の分析を行っています。その結果も古都さんの告発の前後に発表できる予定です。定例記者会見をこれにあわせるかどうかはまだ決まっていますが、追ってお知らせします。

■ 海外記者を招聘？

荒木和博

今朝NHKのニュースを見ていたら、拉致対策本部が海外のジャーナリストを呼んで家族と会ってもらい、拉致問題に関する国際的圧力を高めようとしているとの報道がなされていきました。思わず頭を抱えてしまいました。

何で日本の中枢にいる高級官僚が集まってそういう程度の低いアイデアしか出せないのでしょうか。政府の短波放送「ふるさとの風」の内容もそうなのですが、もう少しましな金の使い方をしてもらいたいものです。

アゴ足付きで外国のジャーナリストにものを書かせるのでは、昔北朝鮮がやっていたことと変わらないのであって、かえって誤解を生むことにもなりかねません。しかも、連れてきて家族に会わせるといのは、結局自分たちが仲介役をするというだけのことです。そんなことは旅行代理店がやればよい。政府がしなければならないことは何なのか、もう少しまじめに考えてくれないのでしょうか。これでは予算消化のために差し障りのないことだけやっているとと言われても仕方ないでしょう。

自民党が参院選で大敗した中で、中山恭子補佐官が高位で通ったというのは、どういう意味があるのか。国民は拉致問題の解決を望んでいるということであり、それは外国に言いつけるような姑息なやり方ではなく（少なくともそれは補完的な活動であるべきです）、正面から取り返す努力をしなければなりません。アゴ足付きで外国の記者を呼ぶなら北朝鮮に対して朝鮮中央放送委員会の慎範アナウンサーを招請してもらいたいと思います。

このニュースを書いているときに28日から30日まで南北頂上会談開催とのニュース

が入ってきました。それまで金正日が無事かどうか分かりませんが、これで盧武鉉大統領及び韓国内の親北勢力は一気に流れを作り大統領選挙に親北候補を当選させようとするでしょう。憲法を停止して連邦制などということもぶちあげるかもしれません。様々な要素が同時に動いているので、そう簡単にいくとは思えませんが、我が国にとって、拉致被害者を取り返すことはもちろん、核問題の解決にも長期的な安全保障にとっても勝負所です。ここは政治の判断が必要であり、勝ち馬に乗るということだけで安倍総理を支持した勢力が離反している今こそ、安倍さんにとってはチャンスのはずです。そのチャンスを活かせるかどうかは決断と覚悟にかかっているはずですし、その決断と覚悟が浸透すれば、今日のニュースのような頓珍漢な行動にはつながらないと思います。

[調査会 NEWS 543] (19.8.10)

■戦略情報研究所講演会

戦略情報研究所では次の講演会を開催します。偶然ですが、ちょうど南北首脳会談の翌日となりました。頂上会談や韓国大統領選挙についても興味深いお話しが聞けるものと期待しています。参加出来ない方もインターネットでの生中継を行いますのでぜひご覧ください。

- 1、日程 8月31日(金)18:30～20:30 (中継は前半講演部分約1時間)
- 2、場所 UIゼンセン会館2階会議室 (千代田区九段南4-8-16 tel03-3288-3549)
※市ヶ谷駅下車3分 日本棋院斜向い (地図は下記をご覧ください)。
- 3、講師 高ヨンチョル・コリア国際研究所研究員
元韓国国防省北朝鮮担当官・著書『北朝鮮特殊部隊 白頭山3号作戦』(講談社刊)、
『国家情報戦略』(佐藤優氏との対談、講談社+α新書、7月刊)。
- 4、テーマ「国家情報戦略」
- 5、参加費 2000円 (今月から戦略情報研究所の会員の方は会費の有効期間中開催される講演会は何回でも参加できるようになりました)。
- 6 参加申し込み
今回は会場に余裕がありますので事前のお申し込みは不用です。

[調査会 NEWS 544] (19.8.13)

■定例記者会見のお知らせ（報道関係者各位）

8月の定例記者会見は7月21日（火）14:00～ 調査会事務所（3階）にて行います。
ご多忙中恐縮ですが対応方よろしくお願い申し上げます。

日時と場所：7月21日（火）14:00～ 於 調査会事務所（3階）

内 容：古都瑞子さんの刑事告発について・矢倉富康さんの音声鑑定・本件に対する
政府の対応等について・他

※すでにお知らせしているように、古都さんについてはご家族が告発人、法律家の会安田
壽朗弁護士が代理人となり21日14:30より告発状を米子警察署に提出します。こ
れに先立ち地元では13:30より米子市政記者クラブで記者会見を行います。本件に
ついてのお問い合わせは妹原常務理事まで御願います。

※今回も記者会見の様様を(株)NetLiveのご協力でインターネット生中継する予定です。
<http://www.netlive.ne.jp/>

■藤田進さん（埼玉県）と坂本とし子さんの北朝鮮での生存情報について

平成19年8月13日
専務理事 真鍋貞樹

7月に開催された六カ国協議の前後に、拉致問題についての様々な情報があった。例え
ば、「7月20日に拉致被害者が万景峰号で帰国」あるいは「金正日が拉致の再調査を指令」
といったものである。あるいは、矢倉富康さんと思われる男性の写真が、北朝鮮からもた
らされた。加えて、藤田進さん（埼玉県）と坂本とし子さんについての北朝鮮での生存情
報も寄せられた。これらの情報の信憑性はともかくとしても、北朝鮮と日本を含めた関係
国との協議があるたびに、何らかの拉致被害者情報もたらされることは、注目しておか
なくてはならない。

そこで、当該の藤田進さんと坂本とし子さんについての生存情報について、ここで整理
をしてお知らせし、今後の情報収集の一助としておきたい。尚、このお二人の生存情報の
信憑性については、確証にたる決め手に欠けていることを前提としてお知らせするもの
である。その趣旨は、こうした情報を確認する術がないとの理由から放置しておくことは、
万一、その情報が正しかった時に重大な結果を招きかねないことから、ディス・インフォ
メーションのリスクを負いながらも、公開するというものである。

情報提供者 中国人ビジネスマン（50歳半ば、男性）

情報提供日 8月6日

情報の概要

「私（情報提供者）は、北朝鮮との貿易の仕事のため北朝鮮に渡り、その合間の7月29日、午後1時に、ピョンヤン郊外の施設にて、藤田進さんと坂本とし子さんと面会をした。面会時間はそれぞれ5分だった。それぞれが下記のように語った」

<藤田進さんと思われる男性の話>

私の叔父が50年前に北朝鮮に渡った。叔父から、私が拉致される半年前ぐらいから、何度か手紙をもらった。消印は日本だった。叔父からの手紙は「公園に行って、誰々と会って、頼みごとを聞いてもらいたい」というものだった。最初は、自宅近くの公園だった。拉致された時に行ったのは、大宮公園だった。拉致された時は、車でグルグル回り、何日か日本にいたようだ。新潟か富山の海岸から運ばれた。

<坂本とし子さんと思われる女性の話>

私の主人は韓国人であった。つい最近亡くなった。私は、14、15年ぐらい収容所に入っていた。私には息子と孫がいるが、所在はわからない。日本人に騙されて北朝鮮に連れられてきた。

本情報の評価

藤田進さんならびに坂本とし子さんについては、これまでも様々な情報がもたらされている。いずれも、脱北者からの情報であり、その内容は、生存を示すものもあれば、坂本とし子さんの場合には亡くなったとの情報もあり、いずれが正しいものなのか判断できない状況にある。また、藤田進さんについては全くデタラメな情報もあった。本情報も、こうした情報と比較考量しても、直ちに「正しいもの」との判断はしかねるものである。

しかし、特に藤田進さんについては、「自分が拉致を手伝った」という人物が現れたこと、そして、藤田進さんだと思われる写真がもたらされたこと、さらに、失踪当時に日本海側で不審な電波が交信されていたことなどから、警察当局も重大な関心を持つ事件であり、拉致された疑いが濃厚な失踪者である。

こうした情報について、日本政府も入手していると思われる。これらの情報の信憑性について、日本政府の責任において確認をし、信憑性があると判断された場合には、当然のごとく、速やかな「救出」に向けて、最大限の努力を行うべきである。

[調査会 NEWS 545] (19.8.14)

■記者会見について（訂正とお知らせ）

前号のニュースで記者会見の日付が7月21日になっていましたが、8月21日の間違いです。お詫びして訂正します。なお、昨日のニュースで流した藤田進さん（埼玉）と坂本とし子さんの件に関する情報については21日の記者会見に真鍋専務理事が都合で出席できないため会見の場ではご質問等のお答えができません。お問い合わせは真鍋宛直接御願いたします。

なお、現在依頼している慎範アナウンサーと矢倉富康さんのご家族の音声の鑑定は20日頃に結果が出る予定ですので、間に合えば21日の記者会見のとき報告します。

[調査会 NEWS 546] (19.8.20)

■記者会見の中継について

明日 21 日 14:00 からの記者会見は従来通り (株)NetLive のご協力によりインターネットで生中継します。NetLive のホームページからご覧下さい。

<http://www.netlive.ne.jp/>

古都瑞子さんの拉致に関する刑事告発と矢倉富康さんの問題についての発表を行います。なお、米子では 13:30 より市政記者クラブで古都さんのご家族、告発代理人の安田弁護士、調査会妹原常務理事の記者会見が行われ、その後 14:30 に米子警察署に告発状が提出されます。

矢倉さんについては漆間警察庁長官が否定的な発言をしたようですが、さて、真相はどうでしょうか。この問題は今後政権を揺さぶる大問題になるような気もするのですが。

(荒木)

[調査会 NEWS 547] (19.8.21)

■ 古都瑞子さん拉致に関する告発状

すでにお知らせしていますが、本日米子警察署に古都瑞子さんの拉致に関して告発が行われます。内容は以下の通りです（住所の細部等は省略してあります）

告 発 状

2007年8月21日

米子警察署 署長 大 田 宜 道 様

〒 689-5531 鳥取県日野郡日南町印賀
告 発 人 古 都 資 朗
〒 689-5531 鳥取県日野郡日南町印賀
告 発 人 古 都 政 代
〒 683-0067 鳥取県米子市東町 296 番地
電 話 0859 - 33 - 1019
F A X 0859 - 34 - 0029
安田法律事務所
告発人ら代理人弁護士 安田 壽朗

住所及び居所 不明
被告発人 某

第 1 告発の趣旨

被告発人を刑法第 226 条（所在国外移送目的略取誘拐）の罪で捜査の上、厳重処罰することを求める。

第 2 告発に関わる犯罪事実

被告発人は、国内外の協力者と共謀の上、1977（昭和 52）年 11 月 14 日（月）午後 9 時頃から翌日 15 日午前 7 時頃にかけて、鳥取県米子市皆生温泉及びその周辺において、当時 47 歳であった告発人古都資朗の実姉古都瑞子（通称洋子、昭和 5 年 4 月 8 日生）を国外移送目的を持って略取誘拐し、密かに日本から北朝鮮国内に移送し、現在に至っているものである。

第 3 関連する事実

1、古都瑞子の失踪は状況からして極めて不自然である。

- (1) 古都瑞子（ふるいち・みずこ）＝通称洋子＝（以下瑞子とする）は、告発人古都政子の長女であり、同古都資朗の実姉である。瑞子は、1930 年（昭和 5 年）4 月 8 日、鳥取県日野郡大宮村大字印賀において出生し同地で成長した。そして、根雨高等女

学校（現日野高等学校）を卒業した後は、米子市皆生温泉で仲居として働きながら、お座敷で歌や踊りなどを客に披露する生活をしてきた。

- (2) 瑞子は、1972年（昭和47年）2月22日、米子市東福原に庭付き延べ130平方メートルの建て売り住宅を購入し、お手伝いさんを雇い、一人暮らしをしていたところ、1977年（昭和52年）11月14日午後9時頃、皆生温泉の旅館玉仙で仕事を終え、タクシーで自宅に帰ったあと、普段着に着替えて家を出た後に消息が消えた。
- (3) 瑞子の身長は約148cm、体重は約45kg、色白、面長、黒髪で長くアップした髪型であり、14日に家を出た時の服装は、白っぽいレースのカーディガンか黒地に大柄な赤い花模様のワンピースを着用し、冬用の女物つっかけを履いていた。
- (4) 翌15日朝、お手伝いさんが出勤した際、瑞子は、自宅から姿を消していたが、自宅には、咽喉の治療のために上京し順天堂大附属病院に行くために購入していた同月16日の米子・東京間のB寝台特急イナバ号の切符とスーツケースが残されていた。そして、常用していたハンドバッグが机の上に置かれたままとなっており、さらに常に携帯していた携帯用のポケットベルが畳の上に残されていた。
- (5) このように、瑞子は、極めて正常な生活状況の中から、忽然と姿を消したのであり、失踪は、瑞子の意思とは全く別の何らかの原因によるものと疑われた。
- (6) 日野郡日南町に住んでいた告発人古都政代は、1977年（昭和52年）11月21日に米子警察署に保護願を出したが、瑞子は現在に至るまで発見されておらず、なおかつ失踪以降国内において何の情報も得られていない。

2、瑞子には自殺や自発的失踪を行う状況は皆無であった。

瑞子の失踪は自殺によるものでも、また自発的なものでもなく、以下の状況からして北朝鮮関係者による拉致の可能性が極めて高い。

(1) 失踪の状況

前述のごとく、11月14日、瑞子は招かれた皆生温泉の旅館「玉仙」の宴席において歌や踊りを披露し、タクシーで自宅へ帰ったのは午後9時頃だった。そして、普段着に着替えて外出し、そのまま行方不明となった。自宅には当日着替えたと見られる着物や16日の東京行きの切符が残されていた。また日頃使うハンドバッグ、ポケットベルなども残されていた。このように正常な生活臭をそのまま残した自殺や自発的失踪はあり得ない。

(2) 失踪の理由が全く見当たらないこと

瑞子は、当時新ねずみ講に投資して190万円の実損を受けたが、現金150万円のほか約400万円の貯金があるうえ、家屋敷の借金も済んでいた。瑞子は、当時としては

高額の約 60 万円の月収があり生活には全く困らない状況であった。当時、米子署幹部は、「ネズミ講の損を苦にして自殺」は考えられない旨の見解を出していた。

(3) 北朝鮮による組織的かつ大量の拉致が行われている時期の事件であり、類似性が見られること

瑞子の失踪は、北朝鮮関係者による組織的かつ大量の拉致が行われている時期の事件である。とりわけ、久米裕（9 月）、松本京子（10 月）及び横田めぐみ（11 月）に対する拉致が行われた時期と近接した事件である。そして、現場の状況は、松本京子、横田めぐみが拉致された米子市和田浜や新潟市寄居浜周辺に類似している。このような状況からして、久米、松本、横田などを拉致した複数のグループが同時に行動して行った犯行と疑われる。

(4) 失踪後全く情報が途絶えていること

いわゆる失踪者は毎年多数いるものの、その後全く情報のない失踪者は極限られており、本件はそれに該当する。本件は、失踪後全く情報が途絶えているが、これは用意周到かつ組織的に準備された拉致の特徴である。

(5) 境港が北朝鮮の工作活動の重要拠点のひとつであること

最寄りの港である境港は、北朝鮮の重要な工作活動の拠点の一つと考えられている。北朝鮮工作員にとって境港から米子市にかけては、十分な土地勘が働く地域であり、他地域に比べて拉致は容易である。ちなみに、米子署管内では、この事件の約 1 ヶ月前にあたる 1977 年（昭和 52 年）10 月 21 日午後 8 時ごろ、すでに政府によって北朝鮮工作員による拉致認定がなされている松本京子失踪事件が起きている。

(6) 不審船が存在していた可能性があること

松本京子が 1977 年（昭和 52 年）10 月 21 日夜失踪したとき、和田町海岸から数百メートル沖合に不審船が停泊していたという情報がある。同年 10 月 17 日には北朝鮮工作船が島根半島沖を航行していたことを海上保安部が確認している。瑞子の失踪したのはこの事件の 25 日後のことであり、時期的近接性からして、この時に確認された北朝鮮工作船は、実行犯との関連性が強く疑われる。

第 4 告発に至った理由

1、瑞子の家族である告発人らは、瑞子の失踪は何らかの事件に巻き込まれたものと判断し、警察に捜索願を出してきた。しかし、その所在はつかめないまま時が過ぎ、昭和 59 年、家族は、泣く泣く瑞子の失踪宣告を行った。

2、その後、北朝鮮による拉致問題が社会の注目を集める中で、瑞子の失踪も北朝鮮の拉致によるものであるとの確信を持つようになった。そして、告発人らは関係者の協力を得て瑞子の失踪時の状況を調査したところ、以下のような事実が判明した。

- (1) 1959年9月29日兵庫県美方郡浜坂町で密入国し活動していた金俊英（日本名川上崇弘）が、浜坂海岸で帰国のため工作船を待っていたところを逮捕され（浜坂事件）。
- (2) 1962年10月16日、兵庫県美方郡香住町余部海岸から朴基華が潜入するという事件が発生した。
- (3) 1970年4月14日、巡視船が兵庫县城崎郡竹野町切浜沖約500mにて無灯火の不審船を発見、追跡中の巡視船「あさぎり」に対し銃撃、追跡するも停船させるに至らなかったという事件が発生した。
- (4) 1974年9月19日、兵庫县城崎郡竹野町切浜海岸（弁天浜の隣接地）で北朝鮮工作員、威国上及び李庸煥の両名が逮捕されるという事件が発生した（切浜事件）。
- (5) 1977年10月17日、島根県江津市北約15kmの地点に不審船が東に向け航行中との通報により、海上保安部「やなかぜ」が出動し同県簸川郡大社町日御碕沖で発見、巡視船艇により追跡するも振り切り逃走しするという事件が発生した。この船は漁船型で、まもなく北朝鮮の工作船「長久丸」と判明した。
- (6) 1980年6月11日、巡視船が兵庫县城崎郡香住町余部埼沖約12.5海里（約23km）にて白灯を点じた漁船型の不審船及び余部埼沖約9.4海里（約17km）にて無灯火小型船を発見された。巡視船艇、航空機が追跡するも、当該不審船はレーダー映像上で無灯火小型船と重なった後、逃走するという事件が発生した。
- (7) 同6月12日、同町香住海岸で工作船を待機中の李基吾と黄博が逮捕されるという事件が発生した（磯の松島事件）。

3、瑞子の失踪が北朝鮮工作員による拉致であるとの確信を持った告発人らは、2002年11月、鳥取県人権局に設置された拉致問題を解決するための連絡相談窓口で瑞子の実情を訴え、かつ米子警察署に改めて保護願を提出した。

4、その後、講談社フライデーの記者が瑞子らしき人物の目撃証人を発見した。目撃証人は、元北朝鮮「血の海歌劇団」団員の金聖愛である。金は、特定失踪者の国広富子（山口県宇部市出身）も目撃したと証言している。参考に、講談社フライデー記者中條茂氏の取材データを概略以下に紹介しておく。このデータによれば、金が会った日本の女性は瑞子の特徴と一致している部分が驚くほど多く、重要な手がかりとして評価すべきである。なお、同データには一部事実と齟齬する箇所があるものの、この齟齬は伝聞という制約のために生じた可能性があり、直接金から情報を得る必要がある。

【2002年に脱北した北朝鮮の元踊子・金聖愛さんによる目撃証言】

「姑の親友にとってもよく似ています。この人と最初に会ったのは‘90年。清津の『外

貨食堂』で行った私の結婚式で、歌と踊りを披露してくれました。(中略)踊りは日本の伝統的なものだそうで、とても上手でした。そのとき、『SEIKO』の腕時計をお祝いに貰ったのを覚えています」

「身長は 150 ～ 160 c m (実際は 148 c m) で、出会った当時は 60 歳ぐらい。(中略)私も彼女とは沢山話をしましたよ。『あなたは(踊りの)才能がある。日本に行けばたくさんおカネを稼げるわ』とよく褒められました」(週刊誌『フライデー』平成 16 年 1 月 23 日号より抜粋)

6、このような情報を総合した場合、瑞子の拉致と北朝鮮における生存はその可能性が極めて高いものと思われる。一方、拉致から 30 年以上経過しており、本人も告発人らも高齢化しており、その救出は一刻の猶予もならない状況である。

7、なお、前述のごとく、被告発人は瑞子の失踪以後海外に潜伏しているものと思われる。従って、当然に公訴時効は停止しているものと判断される。

第5 結語

特定失踪者問題調査会へ家族から拉致の疑いがあるとして情報が寄せられた失踪者約 500 人、その内本人が日本国内にいたことが確認できたのは 20 名(うち 1 人死亡)、約 4 %に過ぎず、大多数はその行方について新たな情報すら寄せられていない。2006 年(平成 18 年)11 月に本政府により拉致認定された松本京子について言えば、当初、日本政府は、金子善次郎衆議院議員の松本京子拉致疑惑を質した質問主意書に対して、2000 年(平成 12 年)12 月 5 日付けで答弁書を提出し、「所要の調査を実施したが、北朝鮮に拉致されたと疑わせる状況等はなかったものと承知している」と回答したものの、6 年後に至って、一転して同女を北朝鮮による拉致被害者と認定した。このように、拉致問題の真相は未だに深いベールにつつまれており、問題の根深さを物語っている。

現在、北朝鮮工作員によって長期的かつ広範囲に多くの日本国民が拉致されたことがますます明らかになりつつある。このことから考えるとき、北朝鮮による拉致はテロというよりある種の戦争ともいえる状況である。おそらくはこの現状を当初から認識していたであろうわが国政府が、なぜこのような大規模かつ悪質な人権侵害を放置してきたのか、その政治的な意図を含め未だ不明であるが、今やこのような状況を一刻も放置し続けることは許されない。また、日本国民のみならず、2007 年(平成 19 年)4 月に警察庁が拉致と断定した高敬美、剛兄弟のような朝鮮籍を含め相当数の在日韓国・朝鮮人もいわゆる「帰国事業」とは別に拉致をされている可能性があり、政府はこの問題も含めて事件全体の調査と原因解明そして失踪者及びその家族の被害回復に全力をもって取り組むべきである。

とりわけ、警察当局は、多くの失踪者について北朝鮮工作員による拉致を疑い、失踪時において速やかに捜査に着手すべきであったにもかかわらず、失踪事件のほとんど全てにおいて拉致を疑わず、その結果時の経過と共に、証拠の散逸と劣化を許し、事件の全体像

に対する解明と被害救済の機会を逸してしまっている。本件は、数多い失踪事件の中にあつてとりわけ拉致が強く疑われる事件であり、警察当局がこれまでの反省の上に立って直ちに立件し、速やかに捜査に着手すべきである。

よって、本件告発をなすものである。

添付書類

1、委任状	2通
2、原戸籍謄本	1通
3、新聞記事コピー	5通
4、国鉄乗車券写	裏表各1通
5、週刊誌『フライデー』新聞記者取材データ	1通

以上

[調査会 NEWS 549] (19.8.23)

■ ソウルで北朝鮮難民の人権問題に関する国際議員連盟第4回総会開催

来る8月28日から30日、ソウルの新羅ホテルで北朝鮮難民の人権問題に関する国際議員連盟の総会が開催されます。

この議員連盟は2003（平成15）年4月に発足したもので、これまでソウル、東京、ウランバートルで総会を開催してきました。今回は第4回目になります。

日本からは中川正春衆議院議員（民主党）をはじめ、この問題に熱心に取り組んできた国会議員が参加する他、家族会・救う会・難民救援基金・守る会などNGOが参加し、調査会からも代表荒木が出席します。荒木の公式の場での発言機会はないと思いますが、期間中特に矢倉富康さんである可能性の存在する北朝鮮の慎範アナウンサーについて、各国の関係者に説明し協力を求めようと考えています。

実際の会議は29日に行われます。概略の内容は次の通りです。

開会

脱北者の証言

第1セッション 中国における北朝鮮難民の現状と対策

第2セッション 女性と子供の北朝鮮難民の人権侵害の現状と解決策

昼食

第3セッション 北朝鮮難民の居住地問題の現状とその解決策

第4セッション 北朝鮮難民、拉致被害者、北朝鮮国民の人権を守る為の国際議連の役割
決議

記者会見

金ムンス・京畿道知事主催レセプション

また、9月17日、18日にはタイのチェンマイで北朝鮮人権問題に関する国際会議が開催されます。こちらには調査会から専務理事真鍋が参加の予定です。

[調査会 NEWS 550] (19.8.27)

■ソウルにて

荒木和博

メールニュースで紀行文を書いても仕方ないのですが、前号ニュースでお知らせした北朝鮮難民の人権問題に関する国際議員連盟の会議のために今日からソウル入りしています。会議は明日の夕方のレセプションからスタートします。日本からも国会議員だけでなく、各 NGO からも参加して盛大なものになるようです。帰国してからになると思いますが、会議の報告も送りたいと思っています。

韓国では先日の野党ハンナラ党の大統領選挙候補選で元ソウル市長の李明博氏が選出され、破れた朴槿恵氏もその結果を受け入れるとしたことから、野党有利の情勢が作られつつあります。ただ、盧大統領や与党・左派、そしてなにより北朝鮮は李明博当選を阻止するためにあらゆる手を使うでしょう。その一つは韓国の憲法を超越して南北の合意をし、連邦制に進めて後戻りできなくするという、一種の革命です。もっとも左翼陣営は分裂状態で、今のままでは候補者もまともに決まりそうにありません。ひょっとしたらこの大統領選挙までの3ヶ月余は、今後の韓国の運命を左右する分岐点なのかも知れません。そのあたりの雰囲気も感じ取ってこれればと思っています。

途中でつかまったりしなければ30日の午後には帰国しますので、31日の戦略情報研究所の講演会（講師・高ヨン Chol 氏）でも土産話が少しできればと思っています。高さんの話しも（というよりこっちが本題ですが）面白いと思いますので、ぜひおいで下さい。

■戦略情報研究所講演会

戦略情報研究所では次の講演会を開催します。偶然ですが、ちょうど南北首脳会談の翌日となりました。頂上会談や韓国大統領選挙についても興味深いお話しが聞けるものと期待しています。参加出来ない方もインターネットでの生中継を行いますのでぜひご覧下さい。

- 1、日程 8月31日(金)18:30～20:30（中継は前半講演部分約1時間）
- 2、場所 U I ゼンセン会館 2階会議室（千代田区九段南 4-8-16 tel03-3288-3549）
※市ヶ谷駅下車3分 日本棋院斜向い
- 3、講師 高ヨン Chol・コリア国際研究所研究員
元韓国国防省北朝鮮担当官・著書『北朝鮮特殊部隊 白頭山3号作戦』（講談社刊）、
『国家情報戦略』（佐藤優氏との対談、講談社+α新書、7月刊）。

4、テーマ「国家情報戦略」

5、参加費 2000 円（今月から戦略情報研究所の会員の方は会費の有効期間中開催される講演会は何回でも参加できるようになりました）。

6 参加申し込み

今回は会場に余裕がありますので事前のお申し込みは不用です。

[調査会 NEWS 551] (19.8.31)

■千葉で写真展開催

「千葉にも拉致はある」というテーマで写真展が開催されます。

1 日時

平成19年9月1日（土）～21日（金） 9時～21時（最終日は14時まで）

2 場所

千葉市・幕張公民館 2階廊下 （JR 幕張駅より徒歩4分・京成幕張駅より徒歩2分）
電話 043-273-7522

3 展示内容

- ・「千葉から北朝鮮に拉致されたと思われる人々」
- ・「家族が語る被害者の思い出」
- ・「北朝鮮に連れ去られた被害者は生きている」
- ・「メッセージに込めた特定失踪者家族の思い」

4 主催団体 国際交流まくはり

5 入場料 無料

■「しおかぜ支援」フリーマーケット

10月14日、練馬区光が丘公園で開催されるフリーマーケットに参加いたします。出店者は短波放送しおかぜに以前からボランティアで応援をさせていただいていた方です。フリーマーケットの売上金はすべて調査会へ寄付され、当日は調査会役員も参加します。そこでご家族の皆様にご自宅でご不用になった物（洋服・家電品・雑貨品・書籍・その他）を寄付願えればと思います。また、可能なご家族は販売に参加いただいても結構です。どうぞご協力の程、お願い申し上げます。

日時：平成19年10月14日（日）（雨天中止当日朝9時決定）

時間：10:00～15:00（準備開始8:00より）

場所：東京都立光が丘公園（区立図書館と管理所の間のけやき広場。噴水の下流です。）
〒179-0072 練馬区光が丘4-1-1

開催団体：NPO 法人フリーマーケット主催団体協議会

交通

東武東上線「成増」下車 徒歩 15 分

営団地下鉄有楽町線「営団成増」下車 徒歩 13 分

都営地下鉄大江戸線「光が丘」下車 徒歩 5 分

JR 中央線「吉祥寺」より西武バス 光が丘三丁目行（約 1 時間）「公園北」下車

ご連絡・お問い合わせは、調査会までお願いします（担当：村尾）

■戦略情報研究所講演会

戦略情報研究所では次の講演会を開催します。偶然ですが、ちょうど南北首脳会談の翌日となりました。頂上会談や韓国大統領選挙についても興味深いお話しが聞けるものと期待しています。参加出来ない方もインターネットでの生中継を行いますのでぜひご覧ください。

- 1、日程 8 月 31 日(金)18:30～20:30（中継は前半講演部分約 1 時間）
- 2、場所 U I ゼンセン会館 2 階会議室（千代田区九段南 4-8-16 tel03-3288-3549）
※市ヶ谷駅下車 3 分 日本棋院斜向い
- 3、講師 高ヨン Chol・コリア国際研究所研究員
元韓国国防省北朝鮮担当官・著書『北朝鮮特殊部隊 白頭山 3 号作戦』（講談社刊）、
『国家情報戦略』（佐藤優氏との対談、講談社+α 新書、7 月刊）。
- 4、テーマ「国家情報戦略」
- 5、参加費 2000 円（今月から戦略情報研究所の会員の方は会費の有効期間中開催される講演会は何回でも参加できるようになりました）。
- 6 参加申し込み
今回は会場に余裕がありますので事前のお申し込みは不用です。